# Shin Matsuoka Exhibition

# 松岡眞展 その軌跡

## 造形空間を変容させる生命体の形象

かしまかずお（美術評論家）

絵画における造形革新は、作家における新しい視覚の発見と等価である。松岡眞の具象絵画の表層に所謂「バイキン」群が登場するのは、1983年頃と思われる。ある時描いた具象絵画の全面に、その形象を浮遊させた。時あたかも得然会った画友に対して、松岡が、その形象をとっさに「バイキン」と称した形象が進化し、現在につながる。当時、自身の絵画と対象との空間を埋める新たな造形を課題としていたと考えられるが、その形象がバイキンとは、行きがかりとは言え異様である。

松岡絵画におけるバイキンの形象は、不可視なものを「可視化」するための造形だった。例えば風景画なら、眼前にある風景の歴史的時空はじめ風景を正統化する環境、風景に潜む痕跡までを視野に収めて初めて真正な風景画が成立する。松岡は風景の背後に潜む実相を丸ごと、描きたいと思ったのではないかと、私は思う。具象の絵画に、バイキンを付加する（画面を感染させる）意義は何か。

これは対象の具象再現という造形上の問題と同時に、存在の真実に係る問題なのだ。従ってこうした造形上の課題を以て風景等を描くならば、松岡眞の描法による絵画は、具象表現の現代絵画に「新たな視覚」を提起したものと評価できる。その視覚の本質は、空間の物理的特性を志向するのではない。あくまで絵画の平面上において、松岡が感覚的に捉えた空間把握であり造形的発見だったと考える。

畢竟、従来の具象再現絵画を破壊し、どう再構築するかが松岡眞の制作上の課題だった。だがそれ等の形象は、作家自身のバイキンの公言にも拘らず、松岡が描く対象と松岡自身を媒介する第三者（つまり生命体）に変容を遂げている。2000年代の一連の作品シリーズの「トルソ」8点は、バイキンというよりも艶めかし気な女たちの変態の空中乱舞にみえる。制作の積み重ねの過程で、松岡の中の第三者は成長・変化して、造形性を明確に差異化する役割を担ってきたことになる。

それは、2015年作品「夏・3.5kmの記憶Ⅱ（長崎市）」、及び2022年作品「キリシタンの海（長崎）」・「ケロイドの使徒像（長崎）」の「胎児」にみる達成が証明する通りである。松岡が思わずバイキンと称した形象は最初から生命体であったし、主題に即して描く対象と作家の間に存在して、絵画空間の性質を決めてきた。キャンバス上の掻き傷の痕跡はその後の感覚の進化の中で、過去・現在・未来をつなぐ命の象徴に純化した。私は今、松岡眞が命の限りに画業を全うすることを遠慮なく希望する。

**松岡 眞　プロフィール**

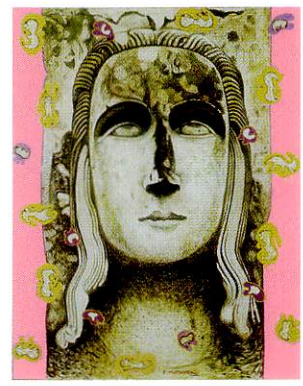
1930年長崎生 長崎大学経済学部卒
大学時代に野口弥太郎画伯の知己を得る。
大学卒業と共に画家を目指して上京。野口弥太郎、山本正に師事。
代々木絵画研究所（本宮龍太郎主催）
現代美術研究所（植村鷹千代主催山口薫教室）研修
独立美術展入選、独立美術選抜展、第二回国際青年美術家展入選
1970年～71年在パリ。アカデミー・ド・ラ・グランド・ショミエール研修
サロン・ドートンヌ入選。サロン・ナショナル・デ・ボザール入選
インタナショナル・ド・パントル展招待出品（エクサンプロヴァンス）
ダルトルフレット画廊主催展（リヨン）
銀座スルガ台画廊　美術ジャーナル画廊　ギャラリージェイコ　各企画個展
棟展（高岡徹、島田鮎子、岩本和子等）銀座スルガ台画廊企画
東京展、パリで出会った画家たち展、ノー・ウォー横浜展
ゲバントハウスの仲間展～ART WAVE展、フェノメナ展、テモアン展、
KIZUNA展　他個展多数
画集発行記念展（始弘画廊企画）　　日本美術家連盟会員

牛骨のある室 1990

百合の花 1981

キリシタンの海 2022

歴 1962



ケロイドの使徒像 2022

2025年3月11日（火）～16日（日）
11:00～18:00（初日12:00より最終日16:00まで）

**銀座 アートホール**

〒104-0061
東京都中央区銀座8丁目110番
銀座コリドー街
TEL：03-3571-5170
WEB：http://ginza-arthall.com

◆JR有楽町駅 徒歩10分
◆地下鉄銀座駅 徒歩7分
◆JR・地下鉄新橋駅 徒歩3分

# 松岡 眞展

## その軌跡

## Shin Matsuoka

銀座 アートホール

2025年3月11日（火）～16日（日）

11:00～18:00（初日12:00より最終日16:00まで）